

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価（案）

1 めざす学校像

Challenge, Change, Smile！（自らの力を高め、視野を広げるために何事にもチャレンジし、自分自身の可能性を引き出し、高め、自己変革をめざす、そして笑顔が絶えない）を合言葉に生徒が来たいと思う学校、来て良かったと思える学校をめざす。そのために

- 1 生徒に「学ぶ楽しさ、わかる喜び」を実感させ、学力の向上に取り組む。
- 2 生徒が社会の一員としての自覚と規範意識を持ち、責任ある行動をとることができるよう生徒指導を充実させる。
- 3 生徒が学習活動・学校行事、部活動等に積極的に参加するとともに主体的に進路を選択し、豊かな自己実現を図れるよう支援する。
- 4 生徒が自らを律し他者を尊重し、思いやる心を持ち、人権や生命を尊重する精神を育む教育に取り組む。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 高大接続改革実行プランや新しい学習指導要領を踏まえ、主体的・協働的な学びの推進、「学ぶ楽しさ、わかる喜び」を実感させる授業改善と教員の資質向上に取り組む。

ア 授業力向上PTを中心に、これまでの授業改善の取組みを強化し、更なる授業改善に組織的に取り組む。

イ ICTを活用した授業展開やアクティブラーニング（AL）について研修・研究をすすめる。

ウ ベル始めを徹底し全教員が45分を有効に使った授業を展開する

エ 大学入試制度の転換に対応するため、教科会議を充実し、3年間を見通した指導内容や指導方法、評価の見直しを図り、観点別評価を確立する。

オ 学習の習慣を身につけさせるための取組みを年間計画に位置付け、試行・実施する。

* 学校教育自己診断（生徒）「授業は分かりやすい」（H28：45%）を3年後には65%にする。

- (2) 国語力、英語力の向上とともにプレゼンテーション能力を育成する。

ア 英語検定、漢字検定の在り方を検討し受験者の増加及び合格率の向上に取り組む。

イ 生徒の主体的・協働的な学びを通して発表の機会を多くするなど、全ての授業で言語活動を重視した取組みを推進する。

* 検定の受験者数を10%ずつ増加させ3年後には30%増をめざす。合格率を5Pずつ向上させ3年後には15P増をめざす。

* 学校教育自己診断（生徒）「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」（H28：53%）を3年後には70%にする。

2 豊かな自己実現の支援・夢や目標を持った生徒の育成

- (1) 志学、キャリア教育、人権教育等について、「総合的な学習の時間」と「LHR」を連携させ3年間を見通した統合的な指導計画を確立する。

* コア会議が核となって検討を進め平成31年度には計画を完成させる。

- (2) 進路指導の充実を図る。

ア 進学希望者に対する講習会を計画的、継続的に実施するシステムを確立し、目標の大学や専門学校への進学決定率を高める。

イ 就職希望者に対しては、面接指導と共にマナー・服装・態度・言葉遣いについての指導を強化し希望先への内定率100%をめざす。

ウ 指定校推薦の校内選考の在り方を検討する。

* 公募推薦、一般受験での合格率を高める（H28：29.4%、21.2%）⇒ H31には45%、30%をめざす 希望先就職内定率 100%

- (3) ルール、マナーの遵守と規範意識の涵養

安全で安心、且つ気持ちの良い学校生活を送るために、お互いが進んで挨拶を行い共にルールやマナーを遵守できる生徒を育成する。そのために「厳しさと優しさ」を基本理念にしつつ学校生活や授業規律について、全教員が一致して生徒に守らせるべき最低限のルール（港スタンダード）を徹底し、組織的・統一的な指導を行う。

ア 挨拶運動に教職員全員で取り組む。

イ 服装・頭髪・装飾品等の指導強化に取り組む。

ウ 遅刻者数の減少に取り組む。

* 学校教育自己診断（保護者「生徒指導の方針に共感できる」生徒「先生は協力して生徒指導にあたっている」）（H28：80.5%、45%）を3年間で共に80%にする。

* 遅刻者数（H25：14000 ⇒ H26：8300 ⇒ H27：6300 ⇒ H28：6900）を3年間で半減させる。

- (4) 生徒の自主活動の育成・活性化

ア 学校の教育活動における様々な機会を通じて部活動の魅力や意義を伝えることに努め、部活動への参加・加入率を高める。

イ 3年間を見通した学校行事の在り方を検討し、平成31年度までに行事計画を再構築する。

ウ 生徒自治会活動を活性化すると共に生徒のリーダー育成に取り組む

* 部活動加入率（H28：55%）を3年間で65%にする。

* 学校教育自己診断（生徒）「港高校で充実した高校生活を送っている」（H28：70%）を3年間で80%にする。

- (5) 不安や悩み、障がい等のある生徒への支援の充実

教育相談体制の充実：保護者や関係機関との連携を強化するとともに情報共有に努め必要な生徒に適切な支援・指導を行うことができるようにする。

* 学校教育自己診断（保護者「心身の悩みについて教育相談できるシステムが学校にあることを知っている。」・生徒「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」）（H28：42.3%、54%）を3年間で65%以上にする

3 学校運営体制の強化・改善

- (1) 「コア会議」（校長、教頭、首席、指導教諭、学年主任）が発案し、運営委員会が企画検討の中心となって学校経営戦略の具体化を推進する。

ア 学年が担任だけでなく副担任を含めた組織（学年団）として機能するように、また各分掌が学校経営計画に則り学校教育自己診断の意見を参考としながらリーダーシップを発揮できるように組織体制を強化・改善する。

イ 学年の独自性は尊重しながらも継続性・連続性のある3ヶ年計画を作成する。

ウ 会議での情報発信や議論（協議）の場の創設により教員一人ひとりが学校経営に参画しているという自覚を高める。

* 学校教育自己診断（教員）「学校運営に教職員の意見が反映されるような仕組みがある」（H28：31%）を3年間で65%とする。

- (2) 教員力向上

研修等の機会を充実すると共に中堅・ベテラン教員が初任者及び若手教員の育成を担当することで自らの力量を高める。（OJT）

- (3) 広報活動と地域連携の充実

ア ホームページの適時更新などできるだけ多くの情報発信に努めると共に中学校訪問を継続し広報活動を活発にする。

イ 地域連携を推進し地域から愛される学校をめざす。

* 学校教育自己診断（保護者）「港高校のHPをよく閲覧する」（H28：30.8%）を3年間で50%とする。

- (4) 防災教育・防災活動の充実

平成26年2月に作成した港高校防災シミュレーションを点検、見直しを図ると共に本校の実態に応じた効果的な防災教育を実践する。

4 校内学習環境の改善と美化清掃の徹底

- (1) 学習環境の維持・向上に努めると共に環境改善のための予算確保に努力する。

- (2) 緑化の推進や各室、倉庫等の整理整頓に努めると共に校内清掃を徹底し気持ちの良い学習環境の維持に努める。

* 学校教育自己診断（保護者・生徒）「清掃活動はきちんと行われている」（H28：75.4%、61%）を3年間で80%とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確 かな 学 力 の 育 成	<p>(1) 主体的・協働的な学びの推進、「学ぶ楽しさ、わかる喜び」を実感させる授業改善と教員の資質向上に取り組む。</p> <p>ア 授業力向上 PT を中心に、授業改善の取組みを強化し、更なる授業改善に組織的に取り組む。</p> <p>イ ICT を活用した授業展開やアクティブラーニング (AL) について研修・研究をすすめる。</p> <p>ウ ベル始めを徹底し全教員が 45 分を有効に使った授業を展開する</p> <p>エ 教科会議を充実し、各教科で 3 年間を見通した指導内容や指導方法、評価の見直しを図り、観点別評価を確立する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 英語検定、漢字検定の在り方を検討し受験者の増加及び合格率の向上に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、イ 教員研修の実施、他校への授業見学や研修参加等により研究を進め、ICT 活用、主体的・協働的な学びを取り入れた授業改善に取り組む。</p> <p>6 月：授業観察デイ、11 月：各教科での研究授業、1 月：成果・課題の発表会、3 月まとめ を実施。</p> <p>教員個々については、授業アンケート後の振り返りシートの提出を必須とし、それを活用した授業改善の取組みを推進する。</p> <p>ウ すべての教員がベル始めの完全定着をめざす。</p> <p>エ① H28 の課題を踏まえ、教科の目標を明確にし、生徒の実態に適合した指導内容、方法、評価方法を教科会議で協議し 1 月の成果発表時に進捗状況として報告、3 月に次年度の計画を立案する。</p> <p>② 研究授業の実施者任せにならないように教科会議で役割分担やスケジュール等を明確にする。</p> <p>(2)</p> <p>ア 卒業までに全員が英検、漢検の何れかの級または両方を取得するシステムを検討する。受験への挑戦や結果を評価に反映させるなどインセンティブ制度の導入を検討する。</p>	<p>(1) 学校教育自己診断 (教員)</p> <p>ア「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に活かしている」、「授業方法等について検討する機会を積極的にもっている」(H28 : 51%、59%) ⇒ 65%に</p> <p>イ「教員間で授業方法について検討する機会を積極的に持っている」、「効率よく授業を進めるために ICT を活用している」(H28 : 59%、64%) ⇒ 65%以上に</p> <p>ウ ベル始め実施率 (授業観察時評価) 80%</p> <p>エ「教科会において指導法についての議論や研究、教材開発に取り組んでいる」(H28 : 44%) ⇒ 65%</p> <p>「授業は分かりやすい」(生徒)(H28 : 45%) ⇒ 60%</p> <p>「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」(H28 : 55%) ⇒ 65%</p> <p>振り返りシート提出率 (H28 : 100%) ⇒ 100%</p> <p>(2) ア 検討進捗状況 受験者数</p>	
2 豊 かな 自己 実現 の 支 援 ・ 夢 や 目 標 を 持 っ た 生 徒 の 育 成	<p>(1) 志学、キャリア教育、人権教育等「総合的な学習の時間」と「LHR」を連携させ 3 年間を見通した統合的な指導計画を確立する。</p> <p>(3) ルール・マナーの遵守と規範意識の涵養 全教員が一致して生徒に守らせるべき最低限のルール (港スタンダード) を徹底し、組織的・統一的な指導を行う。</p> <p>ア 挨拶運動に全教員で取り組む。</p> <p>イ 服装・頭髪・装飾品等の指導強化</p> <p>ウ 遅刻者数の減少に取り組む。</p> <p>(4) 生徒の自主活動の育成・活性化</p> <p>ア 部活動の参加・加入率を高める。</p> <p>イ 3 年間を見通した学校行事の在り方を検討し、平成 31 年度までに行事計画を再構築する。</p>	<p>(1) コア会議において検討 学年毎の計画から、学校全体として 3 年間を見通した計画への改善に取り組み、平成 30 年度から年次進捗で実施する。</p> <p>(3) 授業の場が最大の生徒指導であるという自覚の下、全教員が授業で生徒にしっかりと向き合う。声掛を頻繁に行い、発問を多用し双方向性の授業を行うことで生徒のやる気を引き出す。指導に従わない時は、放置せず担任、副担任と連携して粘り強く指導に当たる。</p> <p>ア 全教職員が名札を着用、挨拶運動に取り組む。教職員が率先して笑顔で挨拶を行うことで来校者に対して生徒が自然に挨拶できる環境を醸成する。</p> <p>イ 指導に齟齬が出ないように全教職員が一致協力して生徒指導に当たる。生徒の理解を促す話を適宜行うと共に自治会活動としての取組みを検討する。</p> <p>ウ これまでの指導方法を見直し個々の生徒に着目した新たな指導方法を検討実施する。</p> <p>(4)</p> <p>ア 様々な機会を通じて部活動の魅力や意義を伝えることに努め、部活動への参加・加入率を高める。クラブ体験期間の実施、部活加入者のインセンティブ制度について検討する。</p> <p>イ コア会議で協議、課題について自治会を中心に生徒にも検討させ、運営委員会で概要案を作成する。</p>	<p>(1) 検討の進捗状況</p> <p>(3)</p> <p>ア 学校協議会での意見、外部 (来校者) 評価</p> <p>イ 学校教育自己診断 (生徒) 「先生は協力して生徒指導に当たっている」(H28 : 44%) ⇒ 65%</p> <p>ウ 遅刻者数 H28 (6900) 比 20%減</p> <p>(4)</p> <p>ア 部活動加入率 (H28 : 58) ⇒ 65%</p> <p>イ 検討・計画の進捗状況 生徒自治会での検討回数 見直した行事・企画の数</p>	

<p>3 学校運営体制の強化・改善</p>	<p>(1) 「コア会議」(校長、教頭、首席、指導教諭、学年主任)が発案し、運営委員会が企画検討の中心となって学校経営戦略の具体化を推進する。 ア 学年が担任だけでなく副担任を含めた組織(学年団)として機能するように、また各分掌が学校経営計画に則り学校教育自己診断の意見を参考としながらリーダーシップを発揮できるように組織体制を強化・改善する。 イ 学年の独自性は尊重しながらも継続性・連続性のある3ヶ年計画を作成する。 ウ 会議での情報発信や議論(協議)の場の創設により教員一人ひとりが学校経営に参画しているという自覚を高める。</p> <p>(3) 広報活動と地域連携の充実</p> <p>(4) 防災教育・防災活動の充実 平成26年2月に作成した港高校防災シミュレーションを点検、見直しを図ると共に本校の実態に応じた効果的な防災教育を実践する。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断の結果と共に自由記述の内容を全教員に配付し教員一人ひとりが課題や要望をしっかりと把握すると共に個人、教科、学年、分掌其々のレベルでどのように対応していくかを明確にする。自己申告票は勿論、教科、学年、分掌の年度当初の目標設定に組み入れ実働していく。 イ コア会議で引き続き検討し、72期生がプロトモデルとなるように検討、年次修正を加えつつ次期に引き継ぎ平成31年には完成させる。 ウ 学年会や分掌会議で各主任が運営委員会での必要な情報を伝えると共に学年や分掌上の懸案や課題について全教職員が共有すると共に意見交換できる場を創設し共通理解を図る。(時間的制約から紙ベースでの報告に終わっている総括や年度当初目標設定等について意見交換する時間を設ける)</p> <p>(3) ア ホームページの新たな活用方法を工夫・検討し広報活動を充実する。 イ 挨拶運動、校内外美化活動の継続実施、港区役所、波除町会、波除保育園、波除小学校、市岡東中学校(他地元中学校)と連携した企画を実施する。</p> <p>教育庁から提示される予定の大規模災害発生時の「初期対応マニュアル(仮称)」を基に本校の防災シミュレーションを点検し、改定を行う。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断(教員)「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」 (H28:36%) ⇒ 60%</p> <p>イ コア会議の検討・進捗状況 港MAPの検討進捗状況 検討回数(H28:5回)</p> <p>ウ 学校教育自己診断(教員)「学校運営に教職員の意見が反映されるような仕組みがある」 (H28:31%) ⇒ 60.0%</p> <p>(3) ア 更新頻度(H28:1/1W)</p> <p>イ 実施企画数 (H28:8企画) ⇒ 10企画</p> <p>点検実施、改定の進捗状況 作成のための会議・検討回数 (H28:0回)</p>	
---------------------------	---	---	--	--